

埼葛退職校長会会報

第66号

令和6年12月発行

発行責任者

野口 淳一

お席替わりますよ

埼葛退職校長会

副会長 橋本久雄



公用で一〇月の下旬、二日続けて中央線の快速電車に乗った時のこと。二日目の午前、車内は立っている方がちらほら見える位の混み具合。カバンを片手に吊革を持つていたのが辛そうだったのか、斜め前の座席に座る女性からタイトルの言葉を掛けられたのだ。瞬間戸惑いながらも丁寧な「ありがとうございます。次の駅で降りますから」と返事をした。

降りる際にも、丁寧にあいさつをして改札口に向かったのだが、内心複雑な思いで歩行者信号を急いで

渡る。

午後三時頃会議が終わり、足取りも軽く駅に向かう。程なくして電車が到着し、ラインからはみ出す小学生らしき親子を先に譲り、順番に乗り込む。

同じようにカバンを持つて吊革を持つ。こうする内、前の席に座る女性（朝の女性より少し年配か）に同じように「どうぞ」と声を掛けられる。

また同じように次の駅で降りますからと丁寧にお断りの言葉を返す。

次の電車に乗り換える際には、普通車のグリーン席に乗り込むことにした。二度あることは三度ある車中、今日の出来事を分析することにした。

一 外見は後期高齢者に間違いない

二 電車内では吊革を持つ人高齢者

三 難しいこと考えずにこれはラッキーと座って仕舞おう。

特集

彩の国教育の日協賛
現職・退職校長教育推進協議会
班活動報告

翌日は埼葛研修の日。藤原一夫先生の睡眠に関する講話を頂戴したが、大変に勉強になった。特に、脳の話には頷くこと頻りであった。同じ職にあつたもの同士の集まりはありがたい。

先生の話を聞いて、前頭葉を鍛える。脳トレをして柔軟な思考をするように。「ありがとうございます。座らせていただきます」これがこの三日間の成果だ。

個別最適な学びと

協働的な学び

東部地区教育長協議会会長
蓮田市教育委員会教育長

西山 通夫



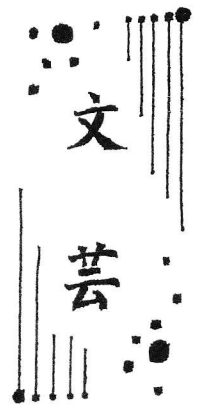
「令和の日本型学校教育」は、

個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指しています。

学びの個別化と聞くと、一九六〇年代後半の完全習得学習や、「脱ゆとり教育」と称される二〇〇八年の学習指導要領に掲げられた「個に応じた指導」が思い起されます。しかし、個別最適な学びは、指導の個別化と学習の個性化という視点で、子供を主体にした学びへの転換を明確にした点が大きく異なり、修得主義的な考え方を生かした個別・個性化と、履修主義的な考え方を生かした協働的な学びとを、一体的に充実することを重視しているのも特徴です。

この考え方は教職員の研修や行政運営についても同様だと考えています。今、教師の質の多様化に応じた個別最適な研修と服務監督が必要であり、協働的な研修を一体的に進めることが求められます。教育行政についても、それぞれの市町村の特色を発展させる個別最適な運営と、山積する多様な課題に対応するため、市町を越えた協働的な運営が必要不可欠です。

埼葛退職校長会のご発展と会員皆様のご健勝をお祈りするとともに、さらなるご支援をお願いし、教育長協議会としての務めを果たしてまいります。



「俳句」

銀やんま

久喜市 福島 孝雄

亡き妻のあと追ふこころ梅雨
の闇

亡妻の呼ぶ声に起く秋の夜半

妻の居ぬ庭に棲^すんだる銀やん
ま

白川郷

三郷市 大輪あけみ

秋燕や茅葺きゆるむ古き家

山萩のこぼるるままにこぼれ
咲く

稲刈つて合掌の里眠ること

「短歌」

笑い閻魔

春日部市 色井 静代

駅までの道順 教えて

くれた青年 ひと

ミントのような草の匂いす

シメ鯖を食むたび母の

味おもう

涼しい酔の味 舌に残りて

いくたびも笑い閻魔に

手を合わす

微熱のごとき罪を抱きて

坂東札所

幸手市 小林 弘和

般若経 三度読みたる

本堂に

千住観音 静かに微笑む

我が読みし 経の解釈

語りたる

修行僧侶の 瞳光れり

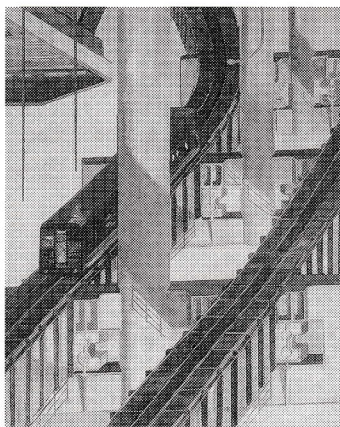
若き僧 作務衣の汗も

ぬぐわずに

深き礼して 受く朱印帳



志上ギャラリー



モノレール

三郷市 石川 和昭

退職後趣味で始めた油絵も

十数年になる。今は、市展・

県展・日展などを中心に活動

している。この作品は千葉県
のモノレールで、直線や曲線
の構造物に魅力を感じ描いて
みた。

編 集 後 記

多くの会員より玉稿をいた
だき、発行することが出来、
感謝と御礼を申し上げます。

また、多くの市町で取り組
みの工夫がなされた事業が展
開され、成果を挙げていると
のうれしい報告がされていま
す。皆様の英知ありがとうございます。

広報部長 佐藤 順一

部員 佐藤 良明

部員 渡邊 晴美

部員 中根 政美

部員 岡安 一雄

カット 三澤 昭人

印刷所 前田印刷株式会社

さいたま市岩槻区東町二四一

TEL 〇四八七五八一〇二一